

病院情報システムによる 医療安全支援のポイントと課題

大阪大学医学部附属病院医療情報部

松村泰志

病院情報システムによる医療安全支援

- 安全に関わる患者情報の共有
 - － 禁忌情報、感染情報
- 不適切オアダのチェック
- 注射・輸血投与時等の患者間違いの防止
- 正確で迅速な情報伝達
- 最新の指示内容の確認
- 医療従事者間の迅速な連絡

病院情報システムによるリスク

- 操作のミス
 - － 患者選択、薬選択の間違い
- 不完全な機能によるリスクの誘導
 - － 不完全な情報共有機能による禁忌情報等の不伝達
 - － 不完全な指示伝達システムによる指示内容の誤解
- 過剰な警告発生による警告の無効化
- システムの不具合がもたらすリスク
 - － プログラムのミスによるもの
 - － マスター設定のミスによるもの

現状の課題

病院情報システムへの期待の拡大



多機能のシステムが開発されたが、細部に不完全さ

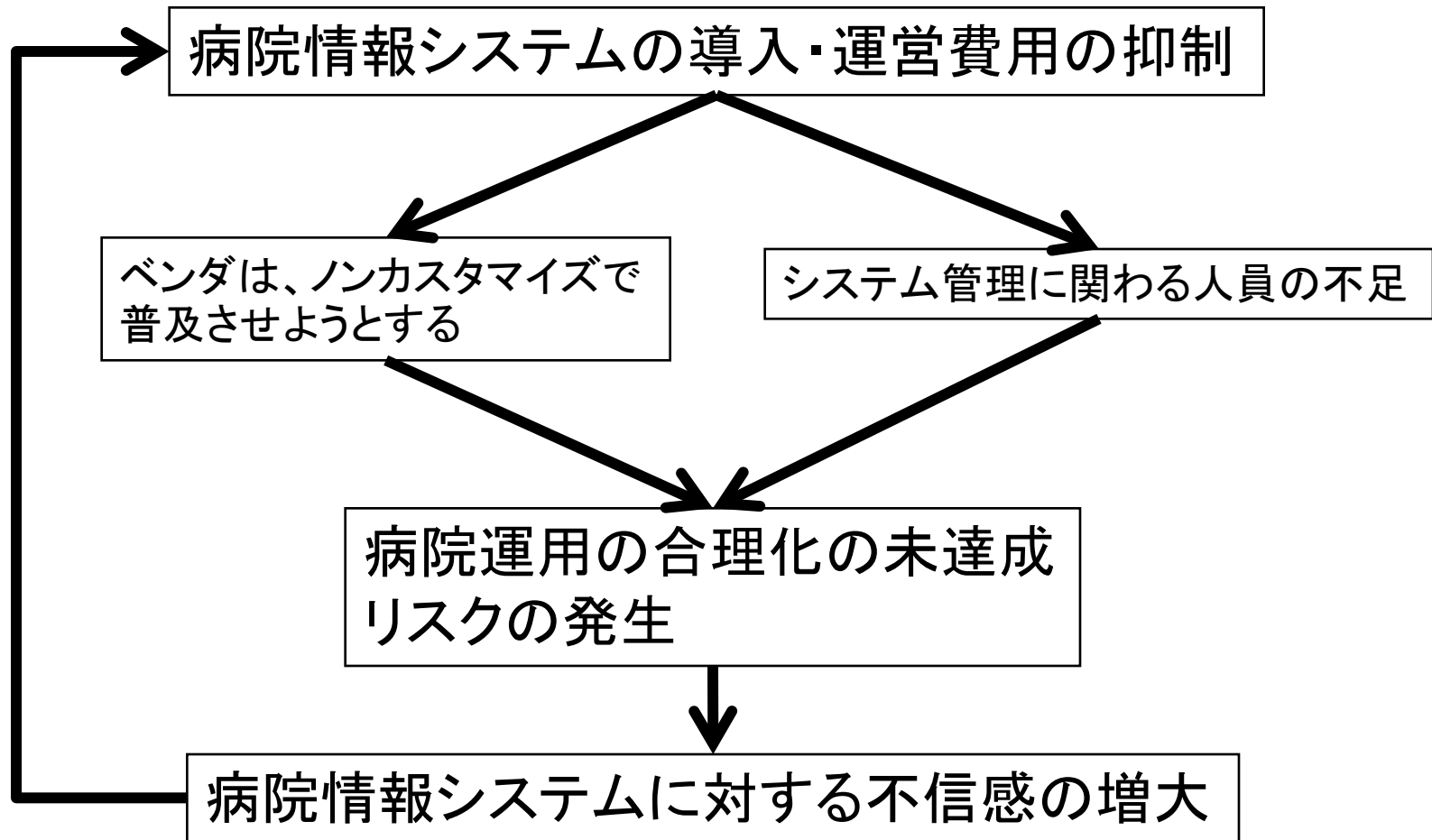


リスクを生む土壌

現状システムの弱点

- あるシステムで登録された情報を、別のシステムで共有しにくい。
- 病棟の指示出し、指示受け、実施の流れのシステム化が不十分。
- 服薬記録、注射の実施記録が正しく記録に残らない。
- 正しい熱型表が作成できない。
- 多種の情報が発生する患者データが一覧しづらい。
- 使い方が分かりにくく、便利な機能が有効利用されない。
- マスタ設定をする人手がなく、機能が有効に利用できない。

病院情報システムが陥っている悪循環



解決に向けての方向

- 現状システムの限界を理解した上で、システムをうまく利用する。
- 病院情報システムの導入・運営費を上げる。
 - ← 国の支援が必要
- 徹底した業務分析の上に緻密なシステムを開発する。
 - システムをまたがる情報の共有化
 - 通常の流れに加え、修正時の処理を適切に
 - 状況に応じた見やすい表現
 - 分かりやすい操作性